

日蓮宗 常栄山

本照寺だより

明けましておめでとございませう

死 死 死 さして？

■「おいおい一休さんや、せつかくの正月だ。ひとつ目出度い一句を詠んでくれや」と、町の衆。そこで一休さん、



死を考えることは、
より良く生きることへの一歩そのもの

以前、本照寺だより36号に「死を迎える空間・ベッド」として一文を記しましたが、今回、「その2」とし、改めて一文を執筆してみました。

存在の理由

■「五十にして天命を知る」とは、孔子の言葉です（私は52...）。天命とは生まれた意味、存在の理由：使命、といったところでしょう。本照寺だより10月号にて紹介した、ゴーギャンの「我々は何か」との問いが、まさに天命と言えましょう。

■これを宗教（法華経）に答えを求めますと、『所化以て同体・しよけもつていふ』『俱体俱用・たいいづゆる』などとなり、「なんのこっちゃ？」となります。で、難しいことを難しく言うことは簡単ですが：前者をやさしく言うのと、『私たちは仏（ご本仏）の子』、だから『仏の願いを具現化・実行する』といったところとなります。

■では一体、ご本仏の願いとは？ となります。で、その『願い』をひと言で簡単に言ってしまうと、「世のため人のため」（近年聞かれなくなり残念です）となります。

■「な〜んだ、簡単じゃん」といった声が聞こえてきそうですが、実はここからが問題なんです。では、それらの裏付け（教義・教学）があるのかどうか、なんですね。果たして日蓮宗で言うその裏付けとは、法華経、そして日蓮大聖人のご文章、となるのです...が。

■ま、少なくとも私たちの「生まれた理由」は、「好き勝手生きるため」、ではないでしょう、ねえ...

んでいるというのか...

■確かに、一例として明治時代の本照寺過去帳を見ると、これほど子どもが死ぬのか？と思うほど。冷静に考えれば「順番」ほどの幸いはないことに気付くはずだ...

■本年も本照寺、また本照寺だよりを宜しく願ひします。

第39号

厚木市下古沢133
TEL・046-247-1156
FAX・046-247-1156
振替・0230-7-35749
(加入者名・本照寺)
発行所
本照寺・須藤教裕



住職家族です。一昨年の「除夜の鐘」での一コマ。院首夫妻は就寝中...（笑）

像してみてください、その想像が、とても大事なことになる（「先ず臨終のことを習いなさい。他のことは後でいいですよ」...日蓮聖人。「私が死を考えるのは死ぬためではない、生きるためだ」：マルロー・仏の作家、政治家）。

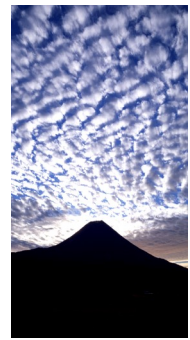
■2つの選択肢があります。

自己肯定感を持ってない人は反面
自殺や殺人に向かうことがあります

■では更に、人生を「肯定」できる生き方とは一体、どういう生き方なのでしょう。これは一言すれば感謝心から発せられる利他（他者のために生きる・働く）であり、宮沢賢治が生きた「世のため」

■本照寺檀信徒の皆さまには一家揃って平和な新年を迎えられましたことと拝察いたし、お慶び申しあげます...（笑）

さて、本年も本照寺は除夜の鐘をうち鳴らし、清々しい元旦を迎えることができました。



：それにしても除夜の澄み切った夜空に鐘の音がゴーン：ゴーンと響き渡ると感無量、と言った感じとなり：広大無辺の夜空に広がって

■本年も、広く社会や檀信徒の皆さまのお役に立つことができればありがたいと思っております。何卒よろしくお願いいたします。

■社会への貢献、奉仕。会社や地域、人様のお役に立つといった利他：そういった「人のために生きることができた実感」や、「社会に必要とされる自分」「他に認められる自分」といった実感が、「自己肯定感」を呼びます（自己否定は自殺や殺人へと向かうことがあります）。

■戦場で重傷を負った兵士が、「お前はよくやった！」との仲間の言葉に、ニッコリ笑みを浮かべて頷き、満足げに「ありがたう...後を頼む」と言いつつ逝った、と、本紙裏面の記事にあります。これも正に「自己肯定感」だったはず。

私たちも、「肯定」できる我が人生を振り返り、切にそれを実感しつつ、そして満足しつつ、人生の店じまいをしたいものです（例外的な職業を除いて、それぞれの職業はもちろん、「お役に立って」います。念のため...）。

私たちのお寺は

宗 派・日蓮宗
ご本尊・大曼陀羅
【だいまんだら】
ご本仏・久遠実成
本師釈迦牟尼仏
【くおんじつじょうほ
んししやかむにぶつ】
総本山・身延山
久遠寺
【みのぶさんくおんじ】
宗 祖・日蓮大聖人
経 典・法華經
主に唱えるもの・開
經偈～方便品～自我
偈～お題目～宝塔偈

あなた死ね人 わたしもやがて死ね人

本社社屋完成からわずか一カ月後、私は最愛の妻、華子を見送った。平成3年1月6日のことである（20年前）。家内、華子はA型特有の気の細かな面があった。その家内が、まるで別人のように従容とし、「ありがとう」の言葉を残して息を引き取った。そのため家族の落ち込みは一切なかった。なぜそうできたのか、ご参考までに、その一端を申し上げよう：

授かりし道

今里 淑郎 89

（天風会大阪賛助会会長・レントゲン装
置等、医療関連製品の作成販売会社・
㈱チユウオー会長）

散る桜 残る桜も 散る桜

■当時、関西で本格的なホスピスホームケアが行われていたのは、大阪の淀川キリスト教病院だった。私はテレビでその病院の柏

木哲先生を初めて知った。番組の中で、先生は京都大学の河合隼雄先生と対談されていた。柏木先生は対談の中で、「あなた死ね人 わたし生きる人」ではなく、「あなた死ぬ人 わたしもやがて死ぬ人」といった気持ちで、死の病に罹っている患者と接するのだと言っておられた。私はびっくりした。この先生は死んでいく人の気持ちをつかんでおられる。

★「本照寺」のホームページは厚木本照寺や日蓮宗本照寺で検索してください。★この「本照寺だより」が届かない家はお檀家登録がされていません。墓地があっても「本照寺だより」が届かない方はお知らせください。

■私はビルマ戦線で生き残った。当時「散る桜 残る桜も散る桜」が合い言葉だった。助かる見込みのない重傷者に「俺もあとから行くから」と言いながら物陰に運ぶと、「ありがとう、後を頼む」と言ってお息を引き取った。戦場では、そんなふうにならぬの最期を看取った。

■それまで、一度も入院したことのなかった家内が、宝塚市立病院に入院した。直腸がんとの診断で、手術は成功したものの、転移しておりあと四カ月の命と言われた。家内は死を見つめ、「家に帰りたい」と言った。その後、縁あってキリスト教病院の温かい配慮で、ホスピスホームケア（在宅ホスピス）が始まった。

編集後記
▼新年早々、冒頭の休さんに始まり、「死」が続きました。正に新年早々に、です。「先ず臨終のことを習いなさい。ほかのことは後でいいですよ」との、日蓮聖人のお言葉を以てお許しをいただければ幸いです。▼では新年らしく「福沢諭吉「心訓」から（私の仕事部屋にありますが）」を著し、慶應義塾の設立命名者です。あ、そうそう、お札にもありましたね（エヘ、私も調べました）。▼さて、厚木市にはバスセンター向かいに「赤十字献血センター」がありすが、一日に一体何人の方々が献血に協力されると思いますか？ 何と平均50人！ 一日にです。これは昨年10月13日、本厚木駅前で「献血にご協力お願いします」との協力をした時に、私が職員さんから聞きしました。当日駅前の献血車でも、45人のご協力をいただきました。これも、「自分のためにやること」が人のためにになり、人のためにやること、自分のためにやること、の一例ですね。皆さんもどうぞ！（血液検査を兼ね毎月通う人もいますとのこと）



家内の様子が翌日から、ガラッと変わった

■さて、どのようにして安らかな見送りができたのか、これについては、『病人が死

を受け入れなければ、安らかな死は有り得ない」ということを実感した。そして受け入れられるためには、前述のような「お前はよくやった」といったような「自己重要感」の充足以外にはないのだ。

■平成3年の10月頃から、病状は下降線をたどり始めた。いよいよ死期が迫ってくる。と、病人の心の動揺が手に取るように判った。

とを口にするようになった。そうした中で、記念すべき10月10日、つまり社屋竣工披露パーティーの当日を迎えた。常務だった家内にも当然席が用意されていたが、残念ながら出席できない。

そんな夜に寝てくださったの」と、満足そのものの様子だった。自己重要感を十分に満足させられたのである。

化粧

せがれが小学生の時お前の母ちゃんきれいだったと友だちに言われたとうれしそうに言ったことがあったそれから丹念に九十七の今もおつくりをしている誰かに ほめられたくて

昨年99歳になった
柴田トヨさん。今も
お元気で詩を書
いています。立派
な詩集も出版され、
大人気のようにです。



幸せ

今週は看護師さんにお風呂に入れてもらいました
せがれの風邪がなおって
二人でカレーを食べました
嫁が歯医者に
連れて行ってくれました
なんて幸せな日の連続でしょう
手鏡の中の私が耀いています
トヨ97歳。「くじけないで」から



「誰かそばにいてほしい、秋のつるべ落とし、日暮れはとても寂しい」、そんなこ

よ。お前のことをみんな心配してくれていたよ。また、褒めてくれたよ。ある人は、会社の人柱だと褒めてくれた。よかったね。」

と、満足そのものの様子だった。自己重要感を十分に満足させられたのである。

と、満足そのものの様子だった。自己重要感を十分に満足させられたのである。